

草の根技術協力事業 業務完了報告書（最終年次）

別添 2

(1) PDM を元にしたサマリー

業務完了報告書（最終年次）＜PDM を元にしたサマリー＞			
1. 事業名（対象国名）	クラスタースクール制度の衛星小学校における図書館普及事業（カンボジア）		
2. 事業実施団体名	シャンティ国際ボランティア会カンボジア事務所		
3. 事業実施期間	2010年3月1日～2012年3月31日		
プロジェクト要約 (Project Summary)	基準値 (Baseline Values for Indicators)	目標値 (Target Values for Indicators)	達成度 (Results)
<u>上位目標</u> (Overall Goal) バンテイミンチェイ州全郡において、図書館活動を通じて、中心校および衛星校での国語学習達成度が向上する。			
<u>プロジェクト目標</u> (Project Purpose) 1. バンテイミンチェイ州対象 2 郡の衛星校において、中心校を活用した図書館活動が行われる。 2. バンテイミンチェイ州全郡の中心校において、中心校が衛星校に図書館活動に関する技術指導を行う素地ができる。	1-1 2郡の衛星校 85 校中 34 校 (40%)で読書活動が行われている。 1-2 2郡の衛星校 85 中 25 校 (29%)で生徒に対して図書貸し出しが行われている。 2-1 中心校 86 校中 63 校 (73%)で月例テクニカル会議において図書館活動について報告、討議がなされている。	1-1 90%の衛星校で読書活動が行われ、生徒一人当たりの年間図書室利用回数を 5 段階 (0-4) で評価し、平均で 2(普通、5 回～7.9 回)以上利用する。 1-2 90%の衛星校で図書貸し出し活動が行われ、生徒一人当たりの年間図書貸し出し冊数を 5 段階 (0-4) で評価し、平均で 2(普通、1 冊～1.9 冊)以上。 2-1 中心校 86 校の 90%で月例テクニカル会議において図書館活動について報告、討議がなされる。	1-1 全ての衛星校 (86 校) で図書館活動が行われ、全衛星校の平均年間図書室利用回数は 5 段階評価の 4 (良い、52.98 回)であった。また、0 評価 (1 回未満) の学校は 0 校であった。 1-2 99%の衛星校 (85 校) で図書貸し出し活動が行われ、全衛星校の平均年間図書貸し出し冊数は 5 段階評価の 3 (少し良い、2.6 冊)であった。また、0 評価 (1 冊未満) の学校が 1 校あった。 2-1 中心校 86 校中 82 校 (95%) で月例テクニカル会議において図書館活動について報告、討議がなされ、この 1 年間に月例テクニカル会議に出席した回数は、クラスター長 5.9 回、中心校の校長 2.4 回、図書館員は 5.7 回であった。

<p>アウトプット (Output)</p> <p>1.1 BMC 州全ての中心校 (86 校) で新図書館活動マニュアルを活用して、図書館活動が定着する</p> <p>1.1.1 クラスター長、中心校の校長、図書館員に図書館活動に関する知識、ノウハウが定着する</p> <p>1.1.2 図書館活動を実施するための図書室の環境が整備される</p> <p>1.1.3 校内に図書館活動を推進するメカニズムができる</p> <p>1.2 BMC 州全てのクラスター長、中心校(86 校)の校長、図書館員が衛星校に対し、果たすべき自らの役割を具体的に理解している</p>	<p>1-1 86 校の中心校の内、図書館員が研修を受けたことがある学校は 72 校 (84%)、105 人</p> <p>1-2 中心校 86 校で図書・備品管理リスト等 (5 種) が作成されている学校はない</p> <p>1-3 中心校 86 校でマニュアルに従って図書、備品が管理されている学校はない</p> <p>1-4 中心校 86 校中 77 校 (90%) で図書室利用時間割に従って図書室を利用している</p> <p>1-5 中心校 86 校中 46 校 (53%) で生徒委員会 (図書館担当) が実際に機能している</p> <p>1-6 中心校 86 校中 63 校 (73%) で月例テクニカル会議において図書館活動について報告、討議がなされている。</p> <p>1-7 中心校 86 校で中心校が衛星校の図書館活動に果たすべき役割を明記したものはなし。</p> <p>1-8 中心校 86 校で衛星校の図書館活動状況を知るデータを持っている学校はない。</p>	<p>1-1 クラスター長 (86 人)、中心校校長 (27 人)、図書館員 (105 人) の 90%が研修会に参加する</p> <p>1-2 中心校 86 校の 90%で図書・備品管理リスト等 (5 種) が作成される</p> <p>1-3 中心校 86 校の 90%でマニュアルに従って図書、備品が管理される。</p> <p>1-4 中心校 86 校の 90%で図書室利用時間割に従って図書室を利用</p> <p>1-5 中心校 86 校の 80%で生徒委員会 (図書館担当) が実際に機能している</p> <p>1-6 中心校 86 校の 90%で月例テクニカル会議において図書館活動について報告、討議がなされる。</p> <p>1-7 役割分担表が作成され、全ての中心校 86 校に配布される。</p> <p>1-8 中心校 86 校の 90%が衛星校の図書館活動ベースライン調査に参加し、データを保管する。</p>	<p>1-1 クラスター長 (86 人中 83 人が出席、97%)、中心校校長 (31 人中 32 人、103%)、図書館員 (88 人中 84 人、95%)、合計 205 人中 199 人、97%が研修会に参加した。</p> <p>1-2 中心校(86 校)の 94%で図書・備品管理リスト等 (5 種) が作成された。</p> <p>1-3 中心校 86 校中 83 校 (97%) でマニュアルに従って図書、備品が管理されている</p> <p>1-4 中心校 86 校中 76 校 (88%) で図書室利用時間割に従って図書室を利用</p> <p>1-5 中心校 86 校中 71 校 (83%) で生徒委員会 (図書館担当) が実際に機能している</p> <p>1-6 中心校 86 校中 82 校 (95%) で月例テクニカル会議において図書館活動について報告、討議がなされ、この 1 年間に月例テクニカル会議に出席した回数は、クラスター長 5.9 回、中心校の校長 2.4 回、図書館員は 5.7 回であった。</p> <p>1-7 役割分担表を作成し、第 2 回目のモニタリング時に全ての中心校 86 校に配布し、クラスター長 (86 人)、中心校の校長 (31 人)、図書館員 (88 人) に説明した。</p> <p>1-8 全ての中心校 86 校が衛星校の図書館活動ベースライン調査に参加し、データを保管している。</p>
--	--	---	---

<p>2. BMC 州対象 2 郡の衛星校（85 校）で、図書館活動の実施能力が強化される</p> <p>2.1 衛星校の校長、図書館員に図書館活動に関する知識、ノウハウが定着する</p> <p>2.2 図書館活動を実施するための図書室の環境が整備される</p> <p>2.3 校内に図書館活動を推進するメカニズムができる</p>	<p>2-1 85 校の衛星校の内、図書館員が配置されている衛星校は 36 校、図書館員は 43 人。</p> <p>2-2 85 校の衛星校の内、図書館員が研修を受けたことがある衛星校は 17 校</p> <p>2-3 衛星校 85 校で図書・備品管理リスト等（5 種）が作成されている学校はない。</p> <p>2-4 衛星校 85 校でマニュアルに従って図書、備品が管理されている学校はない。</p> <p>2-5 衛星校 85 校中 29 校（34%）で図書室利用時間割に従って図書室を利用している。</p> <p>2-6 衛星校 85 校中 15 校（18%）で生徒委員会（図書館担当）が実際に機能している。</p>	<p>2-1 全ての衛星校 86 校に図書館員（図書館兼務含む）が配置される。</p> <p>2-2 校長（85 人）と配置された図書館員の 90%が研修会に参加</p> <p>2-3 衛星校(85 校)の 80%で図書・備品管理リスト等（5 種）が作成される</p> <p>2-4 衛星校(85 校)の 80%でマニュアルに従って図書、備品が管理される</p> <p>2-5 衛星校(85 校)の 50%で図書室利用時間割に従って図書室を利用する</p> <p>2-6 衛星校(85 校)の 50%で生徒委員会（図書館担当）が実際に機能する</p>	<p>2-1 全ての衛星校 86 校に図書館員 89 人が配置された。内、図書館専属が 41 人、兼務が 47 人。</p> <p>2-2 第 1 回目の研修会には校長(85 人中 85 人、100%)と配置された図書館員（87 人中 87 人、100%）が参加。第 2 回目の研修会には校長（85 人中 81 人、94%）と配置された図書館員（89 人中 89 人、100%）が参加した。</p> <p>2-3 衛星校(86 校)の 97%で図書・備品管理リスト等（5 種）が作成された。</p> <p>2-4 衛星校 86 校中 85 校（99%）でマニュアルに従って図書、備品が管理されている。</p> <p>2-5 衛星校 86 校中 67 校（78%）で図書室利用時間割に従って図書室を利用している。</p> <p>2-6 衛星校 86 校中 62 校（72%）で生徒委員会（図書館担当）が実際に機能している</p>
<p>3. BMC 州対象 2 郡内の図書館活動において、中心校(28 校)が衛星校をフォローアップする能力が備わる</p> <p>3.1 クラスター内において図書館活動の知識、ノウハウ、情報がシェアされる</p> <p>3.2 クラスター長、中心校の校長、図書館員が衛星校に対して図書館活動の指導、アドバイスができるようになる</p>	<p>3-1 衛星校 85 校で図書館活動報告書を作成した学校はない</p> <p>3-2 衛星校 85 校中 23 校（27%）が月例テクニカル会議で図書館活動について報告、討議を行っている。</p>	<p>3-1 衛星校(85 校)の 80%で図書館活動報告書が作成される</p> <p>3-2 衛星校 85 校の 80%が月例テクニカル会議で図書館活動について報告、討議を行う。</p>	<p>3-1 衛星校 86 校中 78 校（91%）で図書館活動報告書が作成された</p> <p>3-2 衛星校 85 校中 85 校（99%）が月例テクニカル会議で図書館活動について報告、討議を行った。</p>

<p>4. 州・郡教育局の図書館活動に関するマネジメント能力が強化される</p>	<p>3-3 2郡の中心校 28 校中 27 校で月例テクニカル会議において図書館活動について報告、討議がなされている</p> <hr/> <p>4-1 研修会のトレーナーを務めることのできる州教育局員は 3 人、郡教育局員はなし</p> <p>4-2 モニタリングで技術指導ができる州教育局員は 3 人、郡教育局員はなし</p>	<p>3-3 2郡の中心校 28 校全てで月例テクニカル会議において図書館活動について報告、討議がなされる。</p> <hr/> <p>4-1 研修会のトレーナーを務めることのできる州教育局員は 5 人、郡教育局員 2 人</p> <p>4-2 モニタリングで技術指導ができる州教育局員は 5 人、郡教育局員は 2 人</p>	<p>3-3 2郡の中心校 28 校全てで月例テクニカル会議において図書館活動について報告、討議がなされ、この 1 年間に月例テクニカル会議に出席した回数は、クラスター長 6.7 回、中心校の校長 6.7 回、図書館員は 6.7 回であった。</p> <hr/> <p>4-1 研修会のトレーナーを務めることのできる州教育局員は 5 人、郡教育局員は 5 人（モンゴルボレイ郡 2 人、プノムスロック郡 3 人）である。</p> <p>4-2 モニタリングで技術指導ができる州教育局員は 5 人、郡教育局員は 5 人（モンゴルボレイ郡 2 人、プノムスロック郡 3 人）である。</p>
<p>JICA コメント（在外事務所）</p>		<p>JICA コメント（国内機関）</p>	

(2) 記述式報告

① 【妥当性】計画設計は妥当性があったか。(Are these the right things to do?)

・ ターゲットグループ、対象地等の選定は適切だったか

バンテイミンチェイ州全 9 郡のうち対象地を 2 郡（比較的町に近く図書館活動の活発なモンゴルボレイ郡と僻地で図書館活動の弱いプノムスロック郡）選定し、事業を実施して成果を比較したが、弱いと思われたプノムスロック郡で予想以上に図書館活動が普及、定着した。この理由の一つに郡教育局のコミットが高かったことがあげられる。

よって、本事業によって僻地でも図書館活動が普及することが確かめられたが、一方郡教育局があまり活発でない地域で取り組み、失敗例から学ぶことも必要であったのではないかと思われる。

・ 計画は現地事情やニーズに合っていたか

ちょうど教育省が図書館活動を全国の小学校に普及するために、「小学校図書館スタンダード」の作成の取り掛かっていたところで、その担当責任者が本事業の教育省図書館活動担当委員となっていたこともあって、本事業がそのモデル、パイロット事業となり、スタンダードづくりに生かされた。

また、FTI/ERA のスキームで、小学校へのアクセスと質の向上のために教育省が全国の僻地を中心にして 600 余りの新校舎を建設し、その 1 室を図書室に充て、備品、図書、図書館担当教員の研修を始めており、本事業がそのモデル事業となり、全国からバンテイミンチェイ州への図書館活動見学、研修ツアーが開催されている。

・ 事業開始時の（プロジェクト目標・上位目標達成のための）外部条件の認識は十分だったか

事業実施期間に置いて、教育省のクラスタースクール制度、チャイルドフレンドリースクール制度ともに変更はなく問題はなかった。

一方、州・郡教育局内で大きな組織変革、人事異動などはなかったが、直接のカウンターパートである州図書館トレーナーの内これまで中心的な役割を担ってきた既存の 3 名の内、2 名（初等教育課課長補佐、同職員）が 2011 年度からそれぞれ、課長、課長補佐に昇進し、担当業務が増えて、本事業への参加機会が減った。しかし、それを補って新しい州図書館トレーナー 2 名の図書館活動に関する能力が向上し、研修会、モニタリングなどは計画通りに実施することができたので、本事業全体に影響することはなかった。

また、2011 年 10 月にタイ、カンボジアを襲った大洪水で事業対象地域も被害が出たが、軽微であり、2010 年度のタイ洪水の時は、モンゴルボレイ郡などでは水位が一夜にして急上昇し、図書を避難させることができなくて、被害の出た学校があったが、その教訓を生か

し、今回は事前に図書を移動させたこともあって、図書の被害は皆無であった。

・ 計画やアプローチ手法はプロジェクト目標で目指す問題解決を実現するのに適切だったか

プロジェクト目標の1に、バンテイミンチェイ州対象2郡の衛星校において、「中心校を活用した」図書館活動が行われる、とあるがどう中心校を活用するのが見えないとの指摘を受け、PDMの最終版が決まるまで時間をかけて、かなり記述を変更したが、このことによって、プロジェクト目標を達成することができたと思っている。

プロジェクト目標を達成し、図書館活動が持続的に発展してゆくためには衛星校に一番近い中心校が自分たちの能力を強化し、主体的に衛星校をサポートすることができるようになることが最も必要であったが、当初の計画では中心校のクラスター長や校長、図書館員の能力強化は受動的なアプローチであり、衛星校に対する研修会やモニタリングにおいても教育省や州の図書館トレーナーの脇で補佐的な役割しか考えていなかった。

そこで計画を変更し、衛星校を対象にした研修会やモニタリングにただ学ぶために参加するのではなく、積極的にトレーナーとして関わってもらうようにした。このことによって、クラスター長や中心校校長、図書館員からは、実際に「中心校の研修を受けた時にはあまりよくわかっていなかった図書館のマネジメントのための5種の管理リストのやり方が衛星校の研修で自分が説明しなければならなくなり、本気でわからないところをわかってもらうようになった。」「衛星校を対象とした研修会やモニタリングで衛星校がまだうまくできていないところを指導したり、実際に手本を見せなくてはならないこともあり、マニュアルを学びなおし、お話などを練習するようになった。」などの声が聞かれた。能力強化はインプットしてもらうだけではダメで、他人に教える、アウトプットすることがより効果的ということであろうか。

その結果は2回の中心校へのモニタリングの分析結果にはっきり出ており、対象2郡の中心校はほとんどすべての活動、図書館活動のマネジメントである5種の管理リストの作成、読書やお話し等の図書館活動、そして、月例テクニカル会議の出席率などにおいて、他の7郡に比べて、良い結果が出ている。

また、「まとめ報告会」でモデル校として発表してもらったところは、クラスター内の中心校と衛星校が共に協力し合って図書館活動がさらによくなる相乗効果が出ている。

以上のように、対象2郡での「中心校を活用した」取り組みはその他の7郡の中心校にとって非常に学ぶべきケースとなったと言えるであろう。

② 【実績とプロセス】事業は予定通り行われたか。プロセス・マネジメントを含め、やるべきことをやったか (Are we doing what we said we would do?)

・ PDM 記載のアウトプットは達成されたか

先ず、PDMの期待する成果が達成されたかを見てゆくと、

1.1 BMC 州全ての中心校（86 校）で新図書館活動マニュアルを活用して、図書館活動が定着する

研修会で配布、使用した新図書館活動マニュアルは図書館活動に必要なことからを網羅しており、特に図書館マネジメントの蔵書リスト、利用者記録、図書貸し出し記録作成などはなかなか根気のいる骨の折れる仕事であるが、図書館活動を行うに当たって必ずしなければならないものである。マニュアルに従ってかなりしっかりしたマネジメント方法を学ぶことは、今回の研修会が初めてのものであったが、実際に使用する5種の管理フォームを配布し、実習形式で実施したので、基本的な記述方法はある程度習得することができた。また、お話し等の図書館活動は以前研修を受け、実践してきたことのある中心校の参加者にとっては自分たちの技術を振り返り、確認することができた。

また、研修会、モニタリングの時に図書館活動に必要な図書、教材などを配布するとともに、モニタリング時には図書室のアレンジなどについても技術指導し、時には本棚、机などの配置換えなども協力して行い、図書室の環境の整備を行った。

さらに、学校ぐるみで図書館活動を普及するために、研修会やモニタリングで校長、教員、生徒会（図書館活動担当）にそれぞれの役割と協力の大切さを説明し、事業開始前は6割であった生徒会の協力が8割を超えるようになった。

以上のようなことから、上記の成果は達成されたと言えるであろう。

1.2 BMC 州全てのクラスター長、中心校(86 校)の校長、図書館員が衛星校に対し、果たすべき自らの役割を具体的に理解している

これに関しては、月例テクニカル会議で図書館活動について報告、討議する中心校、衛星校が増えてきていること。中心校が果たすべき役割が文章化され、モニタリングの時にクラスター長、中心校校長、図書館員らに共有されたこと。「まとめ報告会」で全ての中心校の校長らが参加して、年次計画を作成し、その活動の一つに衛星校への協力が盛り込まれたことなどから、果たすべき自らの役割を具体的に理解していると考えられる。

2. BMC 州対象 2 郡の衛星校（85 校）で、図書館活動の実施能力が強化される

研修会とモニタリングを通して、衛星校の校長、図書館員に図書館活動に関する知識、ノウハウが定着し、その結果図書館活動のマネジメント、読書やお話し等の図書館活動ができるようになって来ていることは、図書館活動評価ガイドラインを用いての活動評価においてほとんどすべての活動がよくなっていることからはっきり分かる。

また、図書室に必要な本棚、図書などを研修会やモニタリングの時に配布するとともに、室内アレンジなどもアドバイスして、図書

室の環境が整備された。

さらに、校内で、校長、教員、生徒会（図書館活動）が協力して図書館活動を推進してゆくシステムがほとんどなかった2郡の衛星校で急速に広がっていることなどをみると、上記の成果が達成されたと言えるであろう。

3. BMC 州対象 2 郡内の図書館活動において、中心校(28 校)が衛星校をフォローアップする能力が備わる

中心校を対象とした研修会への参加だけでなく、衛星校を対象とした2回の研修にトレーナーとして参加した事によって、図書館活動に関する知識、ノウハウが一層定着することになった。

また、衛星校との協力意識が進むとともに、月例テクニカル会議に参加する回数もクラスター長、中心校校長、図書館員が1年におはじく6.7回となっており、そのほかの郡に比べて多くなっていることなどから、上記の成果は達成されたと言えるであろう。

4. 州・郡教育局の図書館活動に関するマネジメント能力が強化される

州教育局長のイニシアチヴもあり、州図書館トレーナー、2郡の教育局図書館活動担当官が高いコミットメントを持って、研修会やモニタリングに出来るだけ参加、協力しており、特に新州図書館トレーナーの2名は非常に図書館活動に関する知識、技術が向上し、研修会やモニタリングを1人で十分に担当することができるほどになっている。

また、2郡の教育局をはじめとして、その他の郡の教育局も研修会やモニタリングに参加し、各学校の図書館活動モニタリングなどができるようになって来ている。

さらに、州教育局長がイニシアチヴをとって州教育局事務所内に図書室を設置した事は、これから州全体で図書館活動の普及に取り組んでゆくことが示されたと言えるであろう。

・ 計画（人員・予算・機材調達）は予定どおりの投入と期間で全て実施されたか

人員・予算・機材調達はほぼ予定どおりの投入、期間で全て実施された。尚、学校からの要望並びに、円高差益もあり、図書館活動関連の文具教材を追加購入、配布した。

・ 予定通りいかなかった場合、どのような阻害要因によりそれは引き起こされたか

対象2郡の衛星校への第2回モニタリングの期間中に、教育省主催の研修会（2日間）がバンテイミンチエイで開催され、州図書館トレーナーの一部とクラスター長、校長が、モニタリングに参加できなかった。

- ・ 予定通りいかなかった際に、どのように現場状況に適した対応・事業運営を行い、アウトプット達成を目指したか
その他のトレーナー（教育省図書館担当委員、シェムリアップ州図書館トレーナー、残りのバンテイミンチエイ州図書館トレーナー、SVAスタッフ）と中心校図書館員で役割分担し、モニタリングを予定どおり実施した。
- ・ お金や労力は無駄なく使われ、実績を上げたか（cost-effective だったか）
図書館活動に必要な図書、資材、備品の購入にあたっては、実際にそのものの品質を確かめ、信頼のおけるところから必ず3者の見積もりを取って比較し、一番安いところから購入した。
また、対象校が172校と非常に多く、また配布物も大量の図書、教材などがあつたが、スタッフだけでなく時にはカウンターパートも協力して、手際良くパッキングし、対象校に間違いなく、計画通りに配布することができた。
そのほかにも、研修会の開催や、モニタリングなどもカウンターパートの教育省、州・郡教育局、さらには中心校や衛星校の校長、図書館員などとも協力して、無駄なく、計画通りに実施することができた。

③ 【効果】事業は良い変化をもたらしたか。（Are we making any difference?）

- ・ 事業により目指していた変化はもたらされたか（PDM記載のプロジェクト目標は達成されたか）
対象2郡においては、中心校を対象とした新図書館活動マニュアル研修会や衛星校の研修会、モニタリングを通してクラスター長、中心校校長、図書館員の図書館活動に関する知識やノウハウが一層定着し、衛星校をフォローアップする能力が強化された。
また、衛星校への本棚や図書、教材支援により図書館に最小限必要なインフラを整備するとともに、2回にわたる図書館活動研修会、モニタリングによって、図書館活動を担う図書館員と校長の能力強化を行い、さらに学校内で図書館活動を推進するのに必要な教員や図書館活動担当の生徒委員会からの協力体制が整い、すべての衛星校において読書などの図書館活動が始まり、さらに図書館活動が深まりつつある状況を見ると、プロジェクト目標の1は達成されたと言えるであろう。
また、対象2郡以外の中心校においても、ほとんどの学校で図書館マネジメント、図書館活動がさらに向上しており、対象2郡の取り組みをモニタリング時にその他の中心校にフィードバックすることができ、最後の「まとめ報告会」において全ての参加者（クラスター長、中心校校長）が今後中心校が衛星校に協力して図書館活動を推進することが計画に盛り込まれたことは、プロジェクト目標の2が達成されたと言えるであろう。
さらに、今回中心校や衛星校が図書館活動レベルアップに取り組むこととなった一つの原因として、これまで曖昧であった図書館活動

の評価が、図書館活動評価ガイドラインを作成することによって、評価する側だけでなく、学校の担当者にもはっきり見える形になり、どの点がよいのか、改善すべきなのかがわかるようになり、改善の目標ができたことである。

- ・ 事業の取り組みは問題の解決に役立ったか。事業によりもたらされた変化は、当該事業によるものか。プロジェクト目標達成に対し、アウトプットはどのように貢献したか（因果関係の検証）

事業の取り組みは問題の解決に役立った。事業によりもたらされた変化は、当該事業によるものである。

プロジェクト目標の①「バンテイミンチェイ州対象 2 郡の衛星校において、中心校を活用した図書館活動が行われる」についてであるが、BMC 州対象 2 郡の衛星校（85 校）で、図書室環境（図書、備品など）が整備され、研修会とモニタリングによって校長・図書館員の図書館活動の実施能力が強化された。また、研修会、モニタリングを通して、クラスター長、中心校校長・図書館員の図書館活動に関する知識、テクニックが一層深まり、衛星校をフォローアップする能力が強化されたことは、中心校の人的資源を活用して、中心校と衛星校が協力して衛星校の図書館活動が行われるようになったと言えるであろう。

プロジェクト目標の②「バンテイミンチェイ州全郡の中心校において、中心校が衛星校に図書館活動に関する技術指導を行う素地ができる」であるが、新図書館活動マニュアルを使っの研修会で、クラスター長、中心校校長・図書館員の図書館活動に関する知識、ノウハウが深まり、この 2 年かを通してほとんどの学校で図書館活動の向上が見られた。また、対象 2 郡での取り組みをモニタリング時にフィードバックし、中心校の衛星校への協力の仕方、必要性を理解した事は、中心校が衛星校に図書館活動に関する技術指導を行う素地ができるようになったと言えることができるであろう。

- ・ 変化をもたらす上でどのような促進要因があったか（うまくいった理由：プロジェクト内および外部から両方の要因について）

1. プロジェクト外部からの要因

SVAはカンボジアにおいて 1993 年より図書館活動を実施しており、その過程において教育省や州教育局、学校関係者、教員養成学校などと協力し、信頼関係を築いてきた。また、2004 年から 2007 年にかけてバンテイミンチェイ州で実施した草の根技術協力事業を通して州教育局に図書館トレーナー 6 名を育成するとともに、全ての中心校に図書館活動を普及することができ学校との信頼関係も構築することができた。それに続く 2008 年から 2010 年の草の根技術協力事業では、教育省に 9 人、シェムリアップ州に 6 人の図書館活動を担う人材を育成することができたとともに、ちょうど教育省がチャイルドフレンドリースクール制度に沿って全国の小学校に図書館活動を普及させることを決定し、本格的に開始するのに協力する形となった。

そして、今回の事業においては、教育省が図書館活動を全国普及するために「図書館スタンダード」を作る必要に迫られ、そ

の責任者が先の草の根事業で育成した教育省カリキュラム開発局の図書館責任者であったこともあり、本事業がそのモデル、パイロット事業となった。

「小学校図書館スタンダード」が賛成し、印刷され、全ての小学校に配布を始めたことは、州・郡教育局、学校関係者にとって図書館活動は正規の職務となり、しなければならないものという思いを持つようになってきている。

2. プロジェクト内からの要因

バンテイミンチエイ州の前州教育局長、新州教育局長ともに図書館活動を重視し、その推進に協力してきたが、特に新局長は国内で初めて州教育局事務所内に図書室を設置し、職員や教育関係者への図書館活動の普及、啓もうを先頭を切って推進している。

対象 2 郡の郡教育局の図書館活動担当者が活動の重要性を理解し、積極的に研修会、モニタリング、まとめ会議に参加し、対象 2 郡の中心校、衛星校の図書館活動の普及、強化を達成することができた。

・ 目指していた変化が達成できなかった阻害要因は何か（うまくいかなかった理由：プロジェクト内および外部から両方の要因について）

まず、第 1 回目の中心校を対象とした新図書館活動マニュアル研修会では、図書館マネジメントのための管理リストの取得が参加者にとって十分であったとはいえない。その理由は、管理リストとそれへ記入の研修は今回が初めてのものであり、さらにこの仕事は面倒で労力と忍耐が必要なものであったので、十分時間をかけて、実際に図書を数冊使って、参加者が十分に実習して初めて習得できるものであったが、今回の研修期間が 3 日と短く、さらに参加者が多かったので、トレーナーが十分に目が届かなかったことが原因である。参加者が多い場合は、トレーナーの人数を増やし、研修期間を 5 日くらいとることが必要である。

次に、衛星校を対象とした第 1 回目の研修会であるが、やはり 2 日間で図書館マネジメントのための管理リストの記入とお話し等の図書館活動の研修は内容が詰め込み過ぎであった。ただ、今回は参加者が少なく、トレーナーと 1 対 1 の場合もあったので、中心校の研修より、参加者は習得することができたようである。これを踏まえて、第 2 回目の研修は 3 日とした。

最後に、ほとんどの衛星校では図書館活動のレベルが向上したが、2 年目が悪くなった、普通（2）から弱い（1）に落ちた衛星校が 2 校あった。いずれも、担当教員が契約教員であったり、授業を午前、午後の 2 部受け持ち図書館を見る時間がない場合であった。これらの場合は図書館担当の教員に負担が重くのしかかっており、さらに校長、図書館活動担当の生徒委員もいない場合が多いので、解決策は難しいのが現状である。

・ 事業はどのような直接的な変化をもたらしたか。また、どのような予期しなかった効果をもたらしたか（プラス面、マイナス面のどちら

からも検証)

1. プラス面

本事業の図書館活動の定着、普及を通して、最終裨益者である子どもたちが読書などの図書館活動に参加する機会が増え、学校の教育の質の向上に貢献することができた。

本事業は対象地域の図書館担当者の能力向上、図書館活動の普及だけでなく、本事業をモデル事業、パイロット事業として教育省の「小学校図書館スタンダード」作りに、生かされた。

2. マイナス面

本事業を通してクラスター長、中心校校長・図書館員、衛星校校長・図書館員などの図書館活動を担う人材の能力が強化されたが、その反面、図書館活動をよくしてゆくためには、図書館活動にコミットし、労力や時間的にかかなりの負担を覚悟しなくてはならない。また、図書の補充などの予算も必要となってくる。現在のカンボジアの小学校、特に僻地の衛星校などの教員不足、予算不足、図書館員への給与格差などの状況からすると、かなりの負担になっていることも忘れてはならない事実である。

④ 【持続性】事業によってもたらされた変化はこれからも継続するか (How sustainable are the changes?)

- ・ 事業によりもたらされた変化が草の根技協終了後も持続するための手立ては特定されているか (人的/組織的/予算的体制の整備などのインプット。実施団体の人的/予算的体制を含む)

バンテイミンチェイ州に置いては、本事業を含めこれまでの蓄積と州教育局長はじめ教育関係者のコミットメントも強く、教育省が本格的に図書館活動の普及に乗り出してきたこともあって、本事業終了後も持続していくことと思われる。

ただ、対象 2 郡以外の衛星校の多くはまだ、図書館活動を推進するに会っての人材、図書、備品等が不足していることもあり、教育省での図書館活動に普及のための予算だて、具体的な計画策定が必要となっている。

- ・ 上記にて特定された必要とされるインプット等は、現地の人々の自主的な活動や政府の取り組みで対応できるか

現在、教育省も図書館活動普及のための計画策定中であり、今後期待している。

また、バンテイミンチェイ州に置いても州教育局と国際NGO、カンボジアNGOとの定期協議、ネットワークが立ち上がり、連携がより深まっており、図書館活動に関してもその他の団体の協力を得ることは可能となって来ている。

- ・ 上記対応に支障ある場合、その阻害要因は何か。また、それを克服するにはどのような手立てが必要か

教育省の取り組みがなかなか進まないことも考えられるので、NGO、ドナー機関などの関係機関と協力して、教育省の取り組みをお通しすることも必要かと思われる。

また、カンボジアに置いてはまだまだ読書に関する関心も低く、図書の出版活動もまだまだ不十分なことから教育省だけでなく、関連省庁に働きかけて、「国民読書の日」などを制定し、啓蒙イベントなどを実施することが必要である。

⑤ 市民参加の観点からの実績

- ・ 草の根技術協力事業を実施したことにより、実施団体の事業運営や組織面の強化につながった点はあるか（会計業務、プロジェクト・マネジメント等）

プロジェクト・マネジメントに関するスタッフの知識、ノウハウが向上し、蓄積された。会計業務に関しても、証憑の取り方、記入などを詳細かつ厳正に実施することによって、経理担当者のみならず関係スタッフの管理能力が向上した。

- ・ （参加する機会のあった団体の方々のみ回答下さい） JICA の NGO 支援事業の機会活用により、団体の事業運営や組織面の強化につながった点はあるか（経理・会計業務、広報、ファンドレイジング、事業計画策定、事業評価、組織マネジメント等）

NGO支援事業での研修会などに参加することはなかったが、事業の実施を通して、団体の事業運営、組織運営の強化につながった。

- ・ 本事業を通じ、日本の市民の国際理解促進の機会となる工夫・活動として、どのような取り組みを行ったか（たとえば、市民向けセミナー等）

日本への一時帰国の折、国内でセミナー（カンボジア市民フォーラムでの活動発表）、事業報告会（SVA主催のJIC地球ひろばでの報告会）などを実施した。

また、小会機関紙で本事業の活動状況を報告した。

カンボジア国内においても、ENJJ（大使館、NGO、JICA、商工会でつくるネットワーク）の教育分科会で関係者に本事業の事例報告を行った。

- ・ 本事業を通じ、市民に JICA 及び ODA 事業について周知する工夫・活動として、どのような取り組みを行ったか
省会の機関誌、ホームページで本事業の活動を紹介した。

⑥ グッドプラクティス、教訓、提言等

- ・ 案件実施の意義を具体的に伝えられるエピソード

対象 2 郡での取り組みであるが、関係者のモチベーションが非常に高かったこともあり、予想以上の成果を達成することができた。活動が盛んな学校の図書館員などは、小会が毎年実施している全国おはなし大会に出場し、優勝や入賞をすることができた事はまた、大いにモチベーションが高まったことであろう。

また、熱心な学校はコミュニティーに働き掛け、小さな図書館を建設することができた。一方、州内でも最貧困地域にあり、学校には正規教員が一人もいなく、全て村の契約教員という厳しい状況にあり、教育活動が非常に低調であった僻地の衛星校においても、研修会に参加し、モニタリングで指導、アドバイスを受けているうちに、読書活動などを開始している。

- ・ 他団体等と共有したいグッドプラクティス、教訓

事業を成功に導くためには先ず関係者がその事業をやってみたいと思わなければならない。そのために、人材育成としての研修会が重要であるが、研修会において、事業の目標を明確に伝えるとともに、研修会の内容は一方的な専門家、講師による講義形式になることがないように出来るだけわかりやすく、実践的なもので、参加者が自ら行う実習主体のものとするべきである。

また、研修会はその内容がもちろん充実したものでなければならないが、雰囲気、環境も大切であり、トレーナーは参加者がリラックスして、また楽しんで参加することができるような知識とテクニックが必要である。

さらに、研修後のモニタリングが活動に必要な知識とノウハウの定着を図るためには非常に大切である。単にモニタリング、評価するだけでなく実施主体の疑問に答え、的確なアドバイスができる知識とスキルが必要である。

- ・ 今後に向けた提言（当該プロジェクトの今後の展開、類似プロジェクトへの反映、草の根スキームの改善、団体事業への反映、JICA/現地関係機関/国内関係者とのパートナーシップ改善など）

本事業は教育省がこれから本格的に進めようとする図書館活動のモデルとなることができた。今後は、図書館活動を全ての小学校に普及するために、教育省、関係機関とのさらなる協力が必要となってくる。そのためにも、JICA等関係機関と引き続き協力して事業を実施してゆきたい。

⑦ 写真